

授業改善のポイント 第6学年

目的や意図に応じて情報を収集する力を付ける

何の情報を伝える資料なのかを読み取る。

資料の「タイトル」や「項目」を見るとその資料の伝えたい情報が分かります。



エ 栄養士さんのお話
地産地消のよいところは…

- ・ 栄養のそこなわれない新鮮な農水産物を食べることができます。
- ・ 生産者の顔が見え、安心して買うことができます。
- ・ 季節の「旬」を味わうことができます。

タイトルから、エの資料は「地産地消のよいところを紹介していること」が、クは「地産地消が環境にやさしいこと」が分かります。

ク 環境にやさしい地産地消

外国で生産された食料を日本に運ぶ場合、生産地が遠いほど輸送距離も長くなります。すると、船や飛行機、トラック等によって排出される二酸化炭素が多くなり、地球環境に負担をかけることとなります。

二酸化炭素は地球温暖化の原因になると考えられています。

<ブロッコリー1個(250g)を運ぶ場合>

輸送元→輸送先	距離 (km)	二酸化炭素の量 (g)
アメリカ→日本	8579	51
愛知県→東京都	298	13
新潟市→長岡市	60	3

参考資料：農業とわたしたちの暮らし 2012年
【発行：JAバンクアグリ・エポポート】

「体験や知識をもとに考えを書く」ための資料と「数値を使って考えを書く」ための資料とに分類します。

資料キ、ク、コ、ケは、表を使って様々な数値が書かれています。「数値を使って考えを書く」ための資料です。

資料のエ、オ、カは、総合的な学習の時間等で学習したことや日常生活の中で体験したこと等を想起できます。「体験や知識をもとに考えを書く」ための資料です。

キ 旬の野菜と栄養価

トマトの旬は夏です。トマトにふくまれるビタミンCの量を夏と冬と比べて次のようになります。

トマトの採れた季節	ビタミンCの量
夏	18mg
冬	9mg

ク 環境にやさしい地産地消

外国で生産された食料を日本に運ぶ場合、生産地が遠いほど輸送距離も長くなります。すると、船や飛行機、トラック等によって排出される二酸化炭素が多くなり、地球環境に負担をかけることとなります。

二酸化炭素は地球温暖化の原因になると考えられています。

<ブロッコリー1個(250g)を運ぶ場合>

輸送元→輸送先	距離 (km)	二酸化炭素の量 (g)
アメリカ→日本	8579	51
愛知県→東京都	298	13
新潟市→長岡市	60	3



エ 栄養士さんのお話
地産地消のよいところは…

- ・ 栄養のそこなわれない新鮮な農水産物を食べることができます。
- ・ 生産者の顔が見え、安心して買うことができます。
- ・ 季節の「旬」を味わうことができます。

オ スーパーマーケットの地産地消コーナーの表示

わたしが作りました
山本町〇〇地区
吉田 太郎さん
旨みのあるトマトです。
ぜひ食べてください。

コ 新潟県の小・中学校における米給食回数の推移

年度	1週当たり給食回数
平成17年度	3.5
平成19年度	3.7
平成20年度	3.9
平成21年度	4.0
平成22年度	4.1

※ 米給食とは、主食がご飯(お米)の給食のことです。
※ 新潟県の小・中学校の給食で使われている米は、すべて新潟県産米です。

ケ 日本と主な国の食料自給率

国	食料自給率 (%)
日本	39%
アメリカ	124%
フランス	111%

・ 日本の食料自給率は約40%です。残りの60%は輸入にたよっています。
・ 地産地消は食料自給率の向上につながると思われています。
※ 「食料自給率」とは、国内で消費される食料のうち、どの程度が国内産でまかなわれているかを表す割合です。

カ 地域の農家の小西さんの話

わたしは、野菜と米を生産しています。どちらも地域の小学校の給食に取られています。農業をできるだけ続けたいようにして、さいばいしています。苦勞も多いのですが、体によい物を食べてもらえるので、やりがいを感じています。

【意見文を書くための資料】

「体験や知識をもとに考えを書く」ための資料の中から、自分の目的や意図にあった資料を選びます。

《自分の体験や知識と結びつけて考える例》



エ 栄養士さんのお話

地産地消のよいところは…

- ・ 栄養のそこなわれない新鮮な農水産物を食べることができます。
- ・ 生産者の顔が見え、安心して買うことができます。
- ・ 季節の「旬」を味わうことができます。

自分の学校の給食でも地元の野菜を使っている。新鮮だからいつもおいしい。
地産地消のよさは新鮮な農水産物を食べられることだ。

カ 地域の農家の小西さんのお話



わたしは、野菜と米を生産しています。どちらも地元の小学校の給食に使われています。

農薬をできるだけ使わないようにして、さいばいしています。

苦労も多いのですが、体によい物を食べてもらえるので、やりがいを感じています。

5年生のとき、総合的な学習の時間に米づくりをした。低農薬でつくったので、安心して食べることができた。

地産地消のよさは、作っている人が分かり、安心して食べることができることだ。

部分が体験や知識にあたります。それをふまえて、地産地消のよさを考えています。

「数値を使って考えを書く」ための資料の中から、自分の目的や意図にあった資料を選びます。

《資料の数値に着目して考える例》

ク 環境にやさしい地産地消

外国で生産された食料を日本に運ぶ場合、生産地が遠いほど輸送距離も長くなります。すると、船や飛行機、トラック等によって排出される二酸化炭素が多くなり、地球環境に負担をかけることとなります。

二酸化炭素は地球温暖化の原因になると考えられています。

＜ブロッコリー1個（250g）を運ぶ場合＞

輸送元→輸送先	距離 (km)	二酸化炭素の量 (g)
アメリカ→日本	8579	51
愛知県→東京都	298	13
新潟市→長岡市	60	3

ブロッコリーをアメリカから輸入した場合、51gの二酸化炭素が発生する。ブロッコリーを新潟市から長岡市まで運んだ場合は、3gしか発生しない。51-3=48 だから、48gも少ない。

地球温暖化の原因になる二酸化炭素の発生する量が少なくなるから、環境にやさしい。

が数値に着目している部分です。読み取った数値に自分なりの解釈を加えて、「環境にやさしい」と言う地産地消のよさを考えています。

《資料と結びつけて考えられる体験や知識、数値》

資料	地産地消のよさ	自分の体験や知識、数値
エ	・栄養がそこなわれない、新鮮	新鮮な野菜は栄養があると聞いたことがある。
	・生産者が分かり、安心	家の人、生産者が分かる物を買うようにしている。
	・季節の旬を味わえる	その季節にとれたものを食べるとおいしい。
オ	生産者が分かり、安心	スーパーマーケットの見学や買い物に行ったとき、同じような表示を見たことがある。
カ	低農薬で体によい	総合の学習で低農薬の米づくりに挑戦した。
キ	旬の野菜は栄養価が高い	旬のトマトは、2倍のビタミンCがふくまれている。
ク	輸送距離が短いと二酸化炭素の排出量が少なく、環境によい	愛知県から東京都にブロッコリーを運ぶと13gの二酸化炭素が排出されるが、新潟市から長岡市なら3gしか排出されない。
ケ	食料自給率の向上に役立つ	日本の食料自給率は約40パーセントで、アメリカやフランスと比べると低い。
コ	米飯給食が増えている	平成18年度には3.5回だったが、平成22年度には4.1回までふえている。

構成メモを使って段落を構成する力を付ける

双括型（そうかつがた）の構成で意見文を書く。「始め」と「終わり」に主張を述べるため、一貫した主張になる。

「始め・中・終わり」の構成で、4段落で書きます。
 ・「始め・中・終わり」の三部構成にします。
 ・「中」の部分は、資料を2つ選んで書くので、2つの段落に分けます。「始め」で1段落、「中」で2・3段落、「終わり」で4段落となります。

《構成メモの例》

終わり	中		始め	【構成メモ】
4段落	3段落	2段落	1段落	
このような考えから「地産地消メニュー」がよいと考えます。	数値とそれに対する自分の考え、意見 ・アメリカからブロッコリーを輸入すると、二酸化炭素が五十一グラム発生する。 ・地域のブロッコリーを使うなら、二酸化炭素の発生する量は少ない。 ・二酸化炭素の発生が少ない方が環境にやさしい。	選んだ資料の記号・・・ 資料から分かること ・地産地消は、環境にやさしい。	選んだ資料の記号・・・ 資料から分かること ・栄養がそこなわれない、新鮮。 自分の体験や知識とそれをもとにした考え ・自分でミニトマトを育てた。 ・母は栄養満点だと言っていた。自分もそう感じた。	わたしは、「地産地消メニュー」を提案します。「地産地消メニュー」のよさは二つあります。
		ク	エ	

※ 意見文を書く前に、選んだ「資料」と「自分の考え」に整合性があるか、確認する。

説得力のある文章を書く力を付ける

根拠と理由付けを意識すると説得力が増す。

根拠と理由付けの工夫とは、以下のことを言います。

- ・ 体験や知識などの具体的な例を入れて考えを書く。
※見たり聞いたりしたことも知識とみなす。
- ・ 資料の数値を使って自分の考えを書く。

体験や知識と結び付けて考えを書く場合

数値を使って考えを書く場合

根拠（体験や知識）

自分の家で作った野菜は新せんで栄養がある。

根拠（数値）

二酸化炭素の排出量が少ない

理由付け

（体験や知識と資料を結びつけて考えたこと）
地域で生産された食べ物を使うと栄養がそこなわれないから。

理由付け

（数値から考えたこと）
環境にやさしいから

主張：地産地消のメニューがよい
根拠を基にした理由付けをすると説得力のある主張になる。

<例文1>

一つ目のよさは、栄養がそこなわれないということですが、地域で生産された食べ物を使うと栄養がそこなわれず、新せんなまま食べるのができません。

<例文2>

二つ目のよさは、かん境にやさしいことです。地いきで生産されたブロッコリーを使えば、二酸化炭素の量は少なくてすみます。温暖化の原因といわれる二酸化炭素の発生が少ないので、かん境にやさしいといえます。

体験や知識を根拠として書くと

数値を根拠として書くと

一つ目のよさは、栄養がそこなわれないということですが、わたしは、家で採れたばかりの野菜を使ってサラダを作ったことがあります。母は栄養満点だと言っていました。わたしはその通りだと思いました。このように、地域で生産された食べ物を使うと栄養がそこなわれず、新せんなまま食べるのができません。

二つ目のよさは、かん境にやさしいことです。例えば、アメリカからブロッコリーを輸入した場合、五十一グラムの二酸化炭素が発生します。新潟市から長岡市までブロッコリーを運ぶと、三グラムしか発生しません。温暖化の原因といわれる二酸化炭素の発生が少ないので、かん境にやさしいといえます。

